



保護者が児童の稲刈りを補助

30人以上の保護者が集まり協力しています



中央小PTA 米作り委員会
ながた ともみ
永田 知美 委員長（大池）

地元農家やJ Aの皆さんの協力を得て、私たち米作り委員会は子どもたちの米作りを応援しています。事前準備や日程調整はとても大変ですが、子どもたちにはこの体験を通して米作りの大変さ、食の大切さを知ってもらい、農家の皆さんに対する感謝の気持ちを持ってもらえたらうれしいですね。

子どもたちの 米作り体験記



にしだ ひかり
西田 光梨 さん
(5年生)

地震のあとはしばらくご飯が食べられませんでした。久しぶりに食べたご飯はすごくおいしかったです。まいた種がたくさん実っておいしく大切に食べてもらいたいです。



くどう かな
工藤 楓菜 さん
(5年生)

種まき、田植え、稲刈りなどいろいろな過程をふむことが分かりました。農家の方が一生けん命作られていることが分かったので、残さず食べていきたいです。



5/25
稲の種まき



6/23
田植え



7/22
かかし作り



10/11
稲刈り



11/20
餅つき（中央小祭り）



もち米は丸餅やぜんざいにして振る舞われ、12月の給食では「おこわ」にも使われます



地域とつくる学校教育のいま

現在、市内の小中学校では教科の授業以外に、地域住民の協力を得てさまざまな体験学習を取り入れています。どんな取り組みなのか、2つの小学校の取り組みを紹介し、その目的や効果、本市が目指す学校教育について考えます。

西合志中央小学校

地域の産業を経験して

米の大切さ・農業の大変さを知る

西合志中央小学校では、21年前から3～6年生の食育の一環として米作り（もち米）に取り組んでいます。5年生を中心に、稲の種まき、田植え、かかし作り、稲刈りをし、収穫した米で餅つきをして食べます。この活動を支えるのは、保護者41人でつくる「米作り委員会」と地元農家、J Aなど。学校だけでは難しい取り組みも、保護者や地域の協力で実践し、子どもたちの学びのフィールドを広げています。

田植えと稲刈りには毎年30人以上の米作り委員（保護者）が参加。ほかに真夏の草取りや子どもたちが作ったかかしの設置、さまざまな下準備など、それぞれ忙しい日常生活の間を縫って、泥だらけになりながら保護者としてできることを行なっています。



西合志中央小学校
おがた としえ
緒方 紀江 校長

「みんなが育てたお米から作ったお餅だよ」「わあー！」餅が配られると、児童から大歓声が上がりました。この体験活動をととして、児童は食や勤労などさまざまなことを学び、考えていきます。活動を支援して下さる皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

